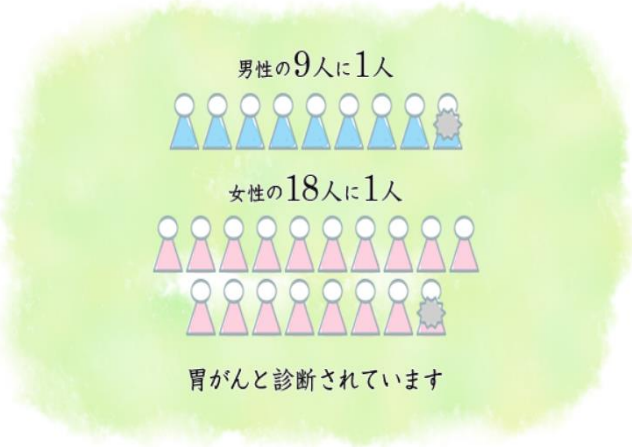
えのもとだより

医療法人 榎本医院
Medical Corporation Enomoto Clinic

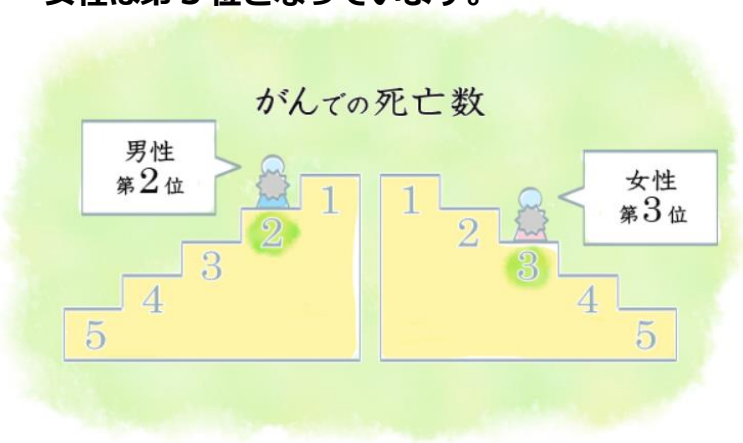
＊身近ながん、胃がん

胃がんは日本人が最も多くかかるがんです。男性はおよそ 9 人にひとり、女性はおよそ 18 人にひとりが、一生のうちに胃がんと診断されています。



日本人の胃がんの死亡数

胃がんはかつて日本人のがんによる死亡数の第 1 位でしたが、最近は診断方法と治療方法が向上し、男性では肺がんに続き第 2 位、女性は第 3 位となっています。



＊いちばんの原因は食生活！

胃の粘膜は粘液などで保護されていますが刺激の強い食べ物を摂り過ぎると炎症を起こし、胃がんのきっかけを作ってしまうことがあります。

塩分の摂り過ぎは禁物で、塩分摂取の多い地域で胃がんが多いことがわかっています。

肉や魚の焦げ、喫煙、過度の飲酒などはよくありません。特に、タバコの発がん物質は唾液に溶けて胃に入るので胃がんの原因にもなります。

夜食、早食い、食べ過ぎといった不規則な食習慣やストレスも胃に負担をかけます。

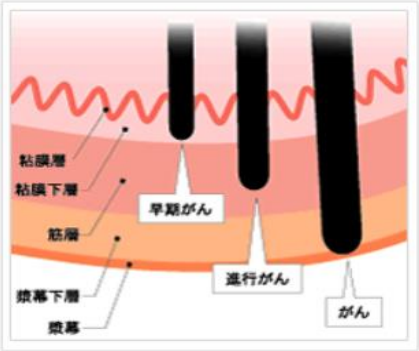
＊早期発見できれば、「ほとんど治る！」

日本人に多く見られる胃がんは、早期発見でほとんど治すことができるようになってきました。

検査法・治療法が飛躍的に向上したことにより、定期的に検診を受け適切な処置をすれば、過度に怖れる病気ではありません。

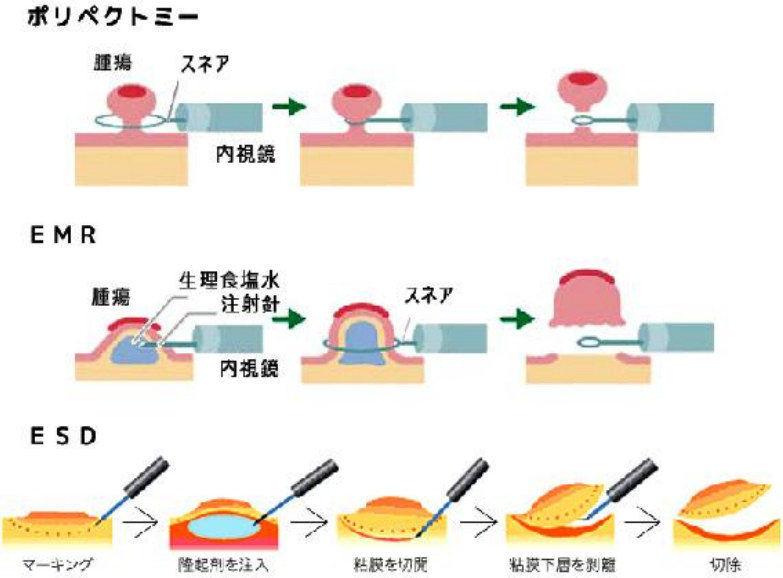
・・・とはいうものの、食べ物や嗜好品、ストレスなど、毎日の生活と密接な関係があり、食生活の見直しを中心にした胃をいたわる心がけが大切です。

＊胃がんが発生しやすい場所



胃がんは、食べたものを消化する胃袋の内側にある粘膜にでき、徐々に粘膜下層、固有筋層、漿膜へと外側に向かって浸潤していきます。
粘膜下層までにとどまっている胃がんを「早期胃がん」といい、固有筋層より深く浸潤したものを「進行胃がん」といいます。
早期のうちに治療できれば根治（治癒）を期待できますが、
それを過ぎると治すことが難しくなります。

＊内視鏡による治療方法



兵庫医大画像引用

内視鏡による治療方法は、主に
・ポリペクトミー
・内視鏡粘膜切除術(EMR)
・内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)があります。

病変を早期発見する事により開腹手術ではなく内視鏡治療で根治(治癒)が期待できます。

＊胃がんの症状

胃がんは、早い段階で自覚症状が出ることは少なく、進行しても無症状の場合があります。代表的な症状は、胃の痛み・不快感・違和感、胸やけ、吐き気、食欲不振などがあります。検査をしなければ確定診断はできませんので、胃薬をのんで様子をみるよりも、まずは医療機関を受診し、検査を受けることが重要です。症状の原因が、胃炎や胃潰瘍の場合でも、内視鏡検査などで偶然に、早期胃がんが発見されることもあり、貧血や黒色便が発見のきっかけになる場合もあります。食事がつかえる、体重が減る、といった症状は、進行胃がんの可能性もあるため、早めに医療機関を受診する必要があります。

最後に昨年当院にて４名の早期胃がんが発見され、２名は当院職員健診で見つかり、内１名は医師で２年前の検査では異常がなく昨年の検査で見つかり、奈良医大にてESD を行い順調に回復し１週間で退院致しました。
検査による早期発見と術後の主治医からの指示を守れば早期に回復するため、年１回の定期検査を受けましょう。
なお、来年度より御所市の胃カメラによる胃がん検診が当院でも受けられます。

医療法人榎本医院　〒639-2251 御所市戸毛 1130 番地 tel:0745-67-0008／fax:0745-67-1063
医療法人榎本医院 介護支援室　〒639-2251 御所市戸毛 1248 番地 tel:0745-67-0931　67-0908／fax:0745-67-0932